垂水区小学生ふれあいドッジボール大会ルール

令和元年年 12 月作成
令和 6 年 9 月 一部改正

【第 1 章】基本条項

(1) チーム編成
監督・コーチ各 1 名及びプレイヤー10～15 名の男女混合とする。

(2) キャプテン
試合開始時のボール支配権を決めるため、チームは、キャプテンを決めること。なお、キャプテンは試合ごとに交代しても構わない。

(3) ユニフォーム・靴
プレイヤーのユニフォームとして、チームは統一した服を着用すること。(学校の運動着等で良い)。
ユニフォームの上に、番号付きのビブスを着用すること。
靴は、室内用運動靴（体育館シューズ等）を着用すること。

(4) スターティングラインナップ
ゲームは、10 人対 10 人で行う。また、必ず男女混合でなければならない。

(5) メンバーチェンジ
原則、試合中のメンバー変更は認めない。ただし、怪我等が発生した場合は次項のとおり。

(6) 怪我等が発生した場合
怪我等により試合続行が不可能となった選手は、すみやかに控えの選手と交代すること。なお、交代可能選手がいない場合は、少ない人数のまま試合を続行する。なお、交代後も男女混合を維持しなければならない。※
なお、交代選手がいない場合のみ、試合時間内に治療を終えると当該選手は試合に戻ることができる。
※(例) 男子 10 名女子 1 名のチームで、女子が怪我をした場合、控えの男子 1 名は交代可能選手ではないため、交代可能選手がいないとみなし、 9 名で試合を続行する。

(7) 抗議・アピール
プレイヤー及び監督等は審判員に対し、抗議及びアピールはできない。

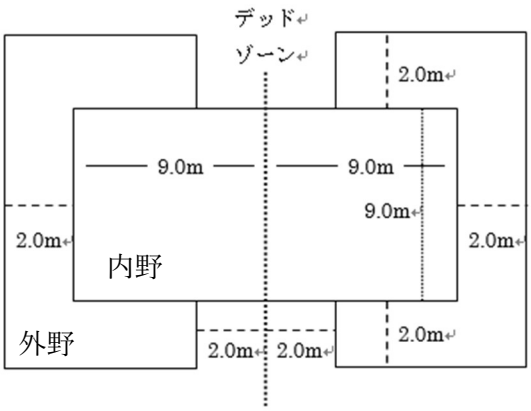
(8) ロスタイム
ロスタイムはいかなる場合も取得しない。

垂水区小学生ふれあいドッジボール大会ルール

令和元年年 12 月作成
令和 6 年 9 月 一部改正

【第 2 章】競技場及び用具

(1) コートサイズは以下のとおり。



インプレイゾーン＝内野＋外野＋ライン上

(2) 用具

ボールは、ソフトドッジボール：ミカサ DB2D-SR 号を使用する。

次の用具等の使用は禁止する。

① スパイクシューズ
② グローブ(リストバンドは可)
③ 滑り止めと判断される物
④ アクセサリー等
⑤ 主審が危険と判断した物

【第 3 章】競技方法

(1) 試合形式

5 分 1 セットマッチとする。

(2) 試合開始

試合開始時のボールの支配権はキャプテンのじゃんけんで決定する。

(3) インプレイ

主審の笛からボールデッド(第 4 章(4))までの間をインプレイ中と呼称する。

(4) 試合再開

試合再開時は、ボールの支配権を有するプレイヤーが自エリア内で静止し、両手でボールを頭上に上げ(ボールアップ)主審の笛の後に投球する。(主審に渡す必要はない。)

令和元年年 12 月作成
令和 6 年 9 月 一部改正

(5) 試合終了

試合終了のブザー又は笛が鳴った瞬間、または一方のチームの内野プレイヤーが全員アウトと確定した瞬間とする。

(6) ゲームの勝敗

ゲーム終了時に内野に残っているプレイヤーの多いチーム、または相手の内野プレイヤーを全員アウトにしたチームの勝利とする。ゲーム終了時に内野プレイヤーが同数の場合、予選リーグでは引き分けとし、決勝トーナメントでは延長戦 2 分で勝敗を決定する。延長戦終了時でも内野プレイヤーが同数の場合は、再延長戦 2 分で勝敗を決定する。延長戦開始時のボールの支配権はキャプテンのじゃんけんで決定する。再延長戦開始時のボールの支配権は、延長戦開始時にボールの支配権を持っていなかったチームとする。

(7) 外野

ゲームの開始時、外野は 1 名以上 9 名以下とする。

【第 4 章】プレイの注意事項

(1) アウトについて

① ユニフォーム、その他身に着けているものに当たった場合もアウトとする。
② 内野プレイヤーは、相手の投げたボールに当てられた場合は、速やかに外野に出なければならない。
③ 外野への移動時は、ボールデッドゾーンを通らなければならない。
④ 2 名以上のプレイヤーが続けて当てられた場合、最初に当てられたプレイヤーのみアウトの対象となる。
⑤ 投球したプレイヤーにファールがあった場合はセーフとする。
⑥ 当たったボールが地面につく前に自身または味方のプレイヤーがキャッチした場合はセーフだが(アシストキャッチ 後述(３))、相手のプレイヤーがキャッチした場合はアウトとなる。

(2) 内野復帰権

① 外野プレイヤーは、相手チームの内野プレイヤーを当てたら、その時点で、すぐにボールデッドゾーンに移動し、味方の内野に入らなければ、内野への復帰権を失う。
次の場合、内野復帰権の放棄とみなし、再度アウトにしないと内野に復帰できない。
・アウトをとったにもかかわらず、インプレイ中そのまま外野エリアで故意、偶然にかかわらず、再びボールに触れた場合。または、再度プレイに加わったと審判員が認めた場合。
② 外野に 1 人しかプレイヤーがいない場合は、内野に復帰できない。
ただし、相手の内野プレイヤーを外野からの攻撃で全員アウトにして試合が終了する場合のみ、

外野を０人にして戻ることができる。

③ 試合開始時の外野プレイヤーもアウトを取らなければ、内野に復帰できない。

(3) アシストキャッチ

① 相手のプレイヤーが投球したノーバウンドのボールが、内野エリアでプレイ中の内野プレイヤーに当たり、そのボールが空中にある間に、味方のプレイヤーまたは当てられたプレイヤー自身がノーバウンドでファールすることなくキャッチした場合、当たったプレイヤーはアウトにはならない。

② アシストキャッチが成立する前に、味方チームがファールをした場合は、そのファールが適用された時点で、最初に当たったプレイヤーはアウトとする。

(4) ボールデッド

ボールデッドとは次の場合をいう。

① インプレイゾーン以外のコート等にボールが接したとき(アウト・オブ・バーンズ)

② ファールが確定したとき。

なお、ボールデッドのボールは近くのプレイヤーが自発的に拾い、主審の指示に従い支配権のあるプレイヤーに速やかに渡すこと。

(5) ボールの支配権

～インプレイ中のボールの支配権～

① インプレイゾーンに転がっている、または静止しているボールを自エリアでキャッチした時点で、そのプレイヤーに支配権が発生する。

② 味方または相手のプレイヤーの投球したボールをファールすることなく自エリアでキャッチした時点で、そのプレイヤーに支配権が発生する。

③ 当たったボールが地面につく前に自身または味方のプレイヤーがキャッチした場合は、そのプレイヤーに支配権が発生する。ただし、アウトになったプレイヤーが故意にボールに触った場合は除く(ダブルタッチ第５章(６))

～アウト・オブ・バーンズ後の支配権～

① ワンタッチ(後述(６))が成立した時点で、その外野プレイヤーに支配権が発生する。

② ワンタッチ不成立の場合、および外野プレイヤーの投球したボールが他のプレイヤーに触れることなくアウト・オブ・バーンズになった場合は、相手の内野に支配権が移動する。

③ 最後に触れたプレイヤーが内野プレイヤーの場合、ボールの支配権は相手の内野に移動する。また、自ら投球したボールを含む。

令和元年年 12 月作成
令和６年９月 一部改正

～ファール確定後の支配権～
ファールを犯した相手のチームの内野または外野に移動する。(各ファール項目参照)

(6) ワンタッチ
最後にボールに触れたプレイヤーが外野プレイヤーの場合、ファールすることなく最後に手(手首から先)でボールに触れて、直接アウト・オブ・バーンズになった時点で、ワンタッチが成立する。ただし、手(手首から先)以外の部位でボールに触れた場合は、ワンタッチとは認めない。

【第５章】 ファール

ファールは以下のとおりとし、ボールの支配権は相手の内野または外野に移動する。

(1) ファイブパス
パスは、ファール及びアウトがなく連続４回程度までとし、５回目のパスが行われた時点を目安にファールとなり、ボールの支配権は相手の内野に移動する。ただし、主審がプレイヤーの投球をアタックと判定したものを除く。

(2) ダブルパス
同一チームの内野プレイヤー同士、または外野プレイヤー同士が、相手コートを交差せずにパスを行った場合はファールとなり、ボールの支配権は相手の内野に移動する。ただし、主審がプレイヤーの投球をアタックと判定したものを除く。
なお、試合再開時のボールアップ前の受け渡しにはファールは適用しない。

(3) オーバーライン（ラインクロス）
① ボールを保持したプレイヤーはラインを踏んだり越えたりしてはならない。この場合ファールとなりボールの支配権は、相手の内野又は外野（ファールを受けたエリアの選手。ただしデッドゾーンに入った場合は相手の内野）に移動する。
なお、投球・キャッチした時だけでなく、ボールに触れた後、ボールを投げるまでの一連の動作の中で、オーバーラインを犯した場合もファールを適用する。
ただし、投球後のラインオーバーにはファールを適用しない。
オーバーラインは足の位置で判断する。
② ボールを保持していないプレイヤーであっても、故意に自エリアから出ていると判断した場合にはファールとする場合がある。

垂水区小学生ふれあいドッジボール大会ルール

令和元年年 12 月作成
令和 6 年 9 月 一部改正

(4) ホールディング
インプレイ中、相手チームのエリア(床面)にあるボールに触れてはならない。この場合、支配権は相手の内野または外野(ファールを受けたエリアの選手)に移動する。ただし、空中にあるボールはこの限りではない。

(5) ヘッドアタック
ノーバウンドの投球で直接相手プレイヤーの顔面または頭部に当ててはならない。この場合、支配権はヘッドアタックを受けた選手に移動し、その投球は無効とする。
ただし、故意にボールに顔や頭をもっていったと審判員が判断した場合や、髪の毛のみ、はちまち等に掠っただけの場合は、ヘッドアタックは適用されない。

(6) ダブルタッチ
アウトになった内野プレイヤーはアウト宣告後、自エリア内で自ら再びボールに触れてはならない。この場合、支配権は相手の内野に移動する。

(7) 遅延行為
プレイヤーがボールを必要以上に保持するなどの遅延行為を行ったと主審が判断した場合には、ファールとすることがある。この場合、支配権は相手の内野に移動する。

(8) フライングスロー
ボールデッド後試合を再開する場合、ボールの支配権を持つプレイヤーは主審の笛の前に投球してはならない。この場合、支配権は相手の内野に移動する。

(9) オーバーコーナー
外野コートでは、ボールを保持したままコーナーを越えて移動してはならない。この場合、支配権は相手の内野に移動する。

(10)テクニカルファール
試合中、プレイヤーや控えのプレイヤー、また監督等が危険行為や重大なマナー違反を行った場合、テクニカルファールとし、支配権は相手チームに移動する。主審、コートマスターの指導、警告後も上記行為を続ける場合には、当該プレイヤーをアウトとしたり、当該チームを失格とし、相手チームの不戦勝とする場合がある。

プレイヤーの危険行為や重大なマナー違反は以下のような場合をいう
・無作法に振る舞う
・相手のプレイヤーを、威嚇したり挑発したりする

令和元年年 12 月作成
令和６年９月 一部改正

・ボールデッド時に試合の再開を不当に遅らせ、試合の進行を妨げる
・不当な利益を得ようとしてコートを離れる
・審判等の判定や指示に従わない
・スポーツマンシップから著しく逸脱した言動が見受けられる

(11)アドバンテージ

主審は、ファールを認めても、ファールをとらずに試合を継続させた方がファールされたチームに有利だと判断した場合には、そのまま試合を続行させることができる。ただし、テクニカルファールはこの限りでない。

―【参考】ひと試合の流れ ―

〈試合前〉

① 出場チームの選手をコートに入れる。
② 選手をそれぞれのチーム１列で整列させ、キャプテン同士でじゃんけんをさせる。
（勝者チームが試合開始時のボール支配権を持つ。）
③ 主審・副審・線審も揃って選手の前で整列し、主審より試合開始のあいさつをする。
④ 選手を各コートに分け、全員座らせる。副審・線審は各立ち位置へ移動する。
⑤ 内野手・外野手の人数、男女混合になっているかを確認する。
⑥ ②のじゃんけんに勝ったチームの内野手にボールを渡す。
⑦ 本部に準備 OK の合図をおくる。
⑧ （全コート準備でき次第）本部よりアナウンス『選手は立ちましょう。』があったら、選手を立たせる。
⑨ （本部より）『ビー』という電子音の合図で試合開始

〈試合後〉

① プレイヤー全員をその場に座らせる。
② ボールを回収する。
③ 内野プレイヤーの人数を数える。
④ 得点を記録員に伝える。
⑤ 全員を整列させ、あいさつをする。